

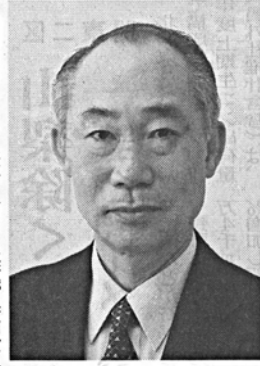
# 「あるべき姿」目指し活動

## JCI・コンクリート基本技術調査委

### 製造・施工、5WGが検討

12～1月 4都市で報告会開く

日本コンクリート工学会(JCI)のコンクリート基本技術調査委員会(委員長・十河茂幸)近未来コンクリート研究会代表は今年12月～来年1月、4都市で報告会を開催する。「コンクリート工事における製造・施工のあるべき姿を目指して」と題するもので、5つのワーキンググループ(WG)のうち今回は3つのWGがこれまでの活動成果を報告する。あわせて「建設分野における生産性向上と品質確保」をテーマとする特別講演や「コンクリート工事における製造・施工のあるべき姿」についてパネルディスカッションも行う。十河委員長は2006年の準備会立ち上げから、これまで具体的な成果を報告できなかった養生に関して報告書がまとまり、それを報告できることが「今回の目玉」と述べる。



十河茂幸委員長

開催案内によると報告切りを実施。参加費(税)は「コンクリート工事・配布資料」WG報告書のポイント(納期)を納めた内、等3冊(含む)は各会場。12月8日の東京会場(機械振興会館ホール)0円、団体会員・後援団(東京・芝公園)を皮

## 3WGが研究成果紹介

### 養生WG報告書に太鼓判

今回の報告会は午前中、鹿児島大学大学院教授が準備工、コンクリート工の両WGがこれらの成果を紹介する。とくに「打込み・縮固めの要領」は分かりやすくまとめられているものの、当時は東京でしか報告会を開いていないと十河委員長は述べ、聴講を推奨して

今回の報告会にとまらず、同調査委員会はJCIの年次大会での討論

報告会の午後の部は特別講演をほさんで養生WG(瀬古繁喜)が活動報告する。「このWGの報告書だけで、参加費は十分に元が取れる」と十河委員長は太鼓判を押す。また、パネル討論の中で、層中のコンクリート温度の問題や生コンの受入検査の在り方にも触れる予定とされている。

十河委員長は「現在、コンクリートのことを熟知しているのは生コン工場の技術者であり、各地の生コン技術者は技術の向上に真摯に取り組むを進めていると理解し、将来的には生コン業界が製造家にとまらず、施工現場に入り込み、打込み・縮固めから硬化後まで責任を持つてやってい

特別講演は東京と仙台が土木研究所先端材料資源研究センター(iMaRRRC)の渡辺博志グループ長、大阪会場は河野広隆京都大学大学院教授、福岡会場は武若耕司

十河委員長は「現在、コンクリートのことを熟知しているのは生コン工場の技術者であり、各地の生コン技術者は技術の向上に真摯に取り組むを進めていると理解し、将来的には生コン業界が製造家にとまらず、施工現場に入り込み、打込み・縮固めから硬化後まで責任を持つてやってい

## 生コン、硬化後まで責任を JCI他委員会とも連携

十河委員長は「現在、コンクリートのことを熟知しているのは生コン工場の技術者であり、各地の生コン技術者は技術の向上に真摯に取り組むを進めていると理解し、将来的には生コン業界が製造家にとまらず、施工現場に入り込み、打込み・縮固めから硬化後まで責任を持つてやってい

生コン記念日特集